

ふくおかのふくし 9

Welfare of Fukuoka

Sep.2013
No.141

希望が丘高等学校 (中間市)



福岡女子商業高等学校 (那珂川町)



高校生介護等体験特別事業の様子 (本誌4項掲載)

今月号の主な内容

- 特集
これからの社協を考える 一社協・生活支援活動強化方針— (後編) . . . P1
- 育てよう「ふくし」の芽 ~平成25年度高校生介護等体験特別事業~
. . . P4
- まごころ製品紹介 ~あなたのまちのまごころ~
『何度も来たくなる』を目指して「うどん豊前屋官べえ (周防学園)」
. . . P7
- 福岡県共同募金会
「赤い羽根共同募金はいざという時の備えにも役立っています」
. . . P9

じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金

この広報誌は、一部共同募金の
配分金を受けて発行しています。



これからの社協を考える

社協・生活支援活動強化方針

(後編)

前号で掲載した全国社会福祉協議会・地域福祉推進委員会が

策定した「社協・生活支援活動強化方針（以下、強化方針）」は、社会的孤立や経済的困窮など今日的な生活課題が深刻化、多様化する全国の社協が今後取り組むべき方向性を示すものです。

今号では、新しい福祉課題に対応すべく様々な事業を展開しているうきは市社協の取り組みから、強化方針の具体化について考えます。

うきは市は福岡県南部の筑後地方に位置し、平成17年に旧吉井町と旧浮羽町が合併して誕生しました。人口は約3万1千人で高齢化率は28.5%、山間部の斜面に精巧に石で積

まれた階段状の棚田が有名な地域です。

うきは市社協では、「信頼」「責任」「協働」の3つのキーワードの下に、「あたらしい福祉課題」に積極的に取り組んでおり、さまざまな事業を展開しています。

不登校・ひきこもり対策 相談支援事業

うきは市社協は平成22年7月から相談支援員を配置し、不登校・ひきこもり状況にある方や家族を対象に相談に応じ、本人の自立を促進することを目的に、市の委託事業として「不登校・ひきこもり対策相談支援事業」を開始しました。

きっかけは、福祉小座談会で地域住民から不登校やひきこもりに関する相談を受けたことでした。詳しく調査を行ったところ、何年も登校していない完全不登校児も多く、その

背景には生活困窮など多くの問題が絡んでいることがわかりました。そこで、学校、行政と支援方策について協議を重ねた結果、市の新規事業として認められ、社協が受託することとなりました。

この事業は開始からの3年間足らずで、支援実人数39名、相談・訪問支援が850回に上り（25年3月末現在）、住民の認知度も高まっています。

事業開始当初からひきこもり相談支援員として活動している権藤俊介さんにこの事業についてお話しを伺いました。



ひきこもり相談支援員
権藤 俊介 氏
(支援している児童が描いた似顔絵)

あらゆるツールで相談対応

相談は、ひきこもり当事者や家族からはもちろん、学校、行政、さらに福祉小座談会などから上がってきます。相談があると、当事者と最も関わりのある方と共に、どのような切り口で今後関わりを作るか検討していきます。当事者と接触できる場合は、電話や来所、メール、チャット

トなど当事者に合った方法で行います。さらに、時機を見ながら、本人の同意を得て訪問活動（アウトリーチ）を展開していきます。



フリースペースに併設された
相談スペース

学校との情報共有を密に

「不登校やひきこもりは『状態像』ではない」と、権藤さんは話されます。ひきこもる背景は虐待、いじめ、家庭の貧困、発達障害などで様々で、その問題にアプローチしていかなければ根本的な解決には至りません。

こういった複雑多様化する課題に対応するため、うきは市内の中学校では、ひきこもり相談支援員、教師、養護教諭、行政職員などが週に1回集まり、情報共有をしています。定期的に開催することで、進捗

状況や新しいケースのつなぎなど、密に情報を交換することができ、各関係機関にとって重要な機会となっています。また、社協内での連携体制も強化し、必要があればすぐに生活福祉資金貸付事業や日常生活自立支援事業などに繋げる体制をとります。

居場所づくりと組織化

うきは市社協では、仲間同士でおしゃべりやゲームを通して交流ができるように、一昨年フリースペースを設置しました。ここには漫画やゲームをはじめ、高校受験のテキストや就職、資格に関する資料などもあります。

また、支援を受けるだけでなく、昨年、フリースペース利用者が、セルフヘルプグループ「switch」を立ち上げ、自分たちの力で自立に向けた活動を行っています。さらに当事者家族の会「みつばちの会」による支援や啓発活動も行われています。

事業開始からこれまでに、再び登校し始めた生徒や、進学や就職が決定した方が増えてきていますが、権藤さんは、「卒業、就職したら支援が終わりではない。どんなときでも寄り添える支援をしていきたい」と伴走型支援の必要性を話されました。



居心地のよい空間づくりをしている
フリースペース

内職シェアステーション CoCoConne (コココンネ)

不登校やひきこもりで悩んでいる方はもちろん、障害者の方、人間関係に不安がある方など様々な生活課題を抱える方にとって就労場所を探すことは容易ではありません。これまでこのような方々を支援し、横断的に利用できる社会資源がなかったことから、家から出るきっかけ、他者と交わるきっかけ、仕事に取り組むきっかけの一助となる、「居場所」と「仕事」を提供するため、今年6月に内職シェアステーション「CoCoConne (コココンネ)」を開設しました。



「CoCoConne」では、社協が仲介となつて製造関連企業から内職をいただき、利用者の能力に応じた内容や量を分業しています。

現在登録者は15名で、1日平均5名の方が自分のペースで作業をし、納品の際は、工場の方との挨拶や会話により社会性の向上にも繋がっています。

今後は、内職提供業者を開拓し、利用者の幅も広げつつ、「CoCoConne」を、個々人の能力や特性の見極めの場、一般就労への足がかり、社会性回復の交流拠点を目指します。

要支援・困窮世帯野菜配達事業

さらに、うきは市社協では、平成18年から地元の農産物販売所のご厚意により、余剰分の野菜や、市民から提供されたお米を、福祉小座談会などで把握した市内の要支援世帯に、安否確認を兼ねて配達しています。生活保護や生活福祉資金貸付の対象にならない方、障害のある方やひとり親世帯などを中心に、現在約20世帯が配達対象です。



強化方針の行動宣言では、社協はあらゆる生活課題への対応、相談支援体制の強化、アウトリーチの徹底、地域の繋がりの再構築、行政とのパートナーシップに取り組むこととしています。

うきは市社協は積極的なアウトリーチが土台となっており、そこから出てきた「あらゆる」課題に対応するために様々な機関と連携して事業につなげ、個人に寄り添う支援を行っています。

強化方針は今までの社協の取り組みを踏まえて、改めて生活支援活動を強化していく上での指針です。あらゆる生活課題を受け止め、つながりを再構築する役割が今社協に求められています。

市区町村社協会長・常務理事・事務局長研修会 「社協がとりくむ生活支援活動」

本会では、社会福祉諸制度をめぐる最新の中央情勢を踏まえ、これからの社協のあり方等について共通認識を図ることを目的として、平成25年度市区町村社会福祉協議会会長・常務理事・事務局長研修会を7月29日・30日に朝倉市（ホテルパール・ス小野屋）で57市区町村社協112名の参加を得て、開催しました。

1日目は、本会が県内市区町村社協を対象に実施した個別台帳調査結果の報告及び昨年度から再開した市町村社協委員会・専門委員会での検討状況について報告を行いました。

その後、「社協として生活支援活動にどう取り組むか」と題し、ルーテル学院大学大学院和田敏明教授に講演をいただきました。和田教授は、「先の国会では生活困窮者自立支援法案は廃案となっていました。平成27年度から事業が始まることはほぼ間違いない。この法案で示された自立支援事業や全社協が示した社協・生活支援活動強化方針の内容は、今まで取り組んでいない活動を新たに始めるということではなく、従来から社協が取り組んできた

活動内容を強化するものとなっている。今までの社協活動の成果を十分に確認しながら、一歩前進して新しい日本のセーフティネットづくりの一端を担うということを社協全体で共通認識し、誰もが安心して生活できる地域づくりを推進してほしい」と社協への期待について話されました。



ルーテル学院大学大学院
教授 和田敏明氏

2日目の実践報告では、大野城市社協と糸島市社協からそれぞれ実践報告をいただきました。

大野城市社協 総務企画課長 合原佳登理氏からは「社協職員全体で取り組む総合相談」をテーマに、担当部署だけでなくすべての職員が相談に対応できる体制づくりや他団体との連携・情報共有のあり方、東日本

大震災以降つながりを持ち続けている福島への支援の取組み等について報告いただきました。



大野城市社協 合原佳登理総務企画課長（右）
糸島市社協 山崎数彦事務局長（左）

また、糸島市社協 事務局長 山崎数彦氏からは「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業への取り組み」をテーマに、福岡県内の市町村社協では初の取組みとなる「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」の事業開始までの経緯や今後の展望、地域福祉活動推進の基盤となる校区社協の取組み等について報告いただきました。

実践報告後はグループに分かれ、各社協の活動内容や社協のあり方について、活発に情報交換・意見交換が行われ、有意義な2日間となりました。

糸島に安心して住み続けるために…
「介護拠点センターそれいゆ」
が開所しました！

糸島市社会福祉協議会では、去る平成25年8月1日に介護拠点センターそれいゆを開所しました。

開所当日には、糸島市副市長をはじめ地域の方々など約40名が参加されました。

介護拠点センターそれいゆは、24時間365日の定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスや、高齢者デイサービスを提供し、糸島にいつまでも安心して暮らし続けたいという住民の思いをサポートします。



【問い合わせ先】

地域福祉部 地域課

☎092(584)3377

育てよう「ふくし」の芽

※ 本会では、福祉教育の一環として、高等学校の生徒を対象に、社会福祉に関する体験学習の機会を通して福祉活動への理解と関心を深め、ボランティアや社会連帯の心を育むことを目的に、平成9年度から「高校生介護等体験特別事業」を福岡県教育委員会のご後援を受けて実施しています。

3か年指定事業の2年目となる今年は、昨年度に引き続き、希望が丘高等学校（中間市）と福岡女子商業高等学校（那珂川町）の指定校2校がこの事業に取り組み、施設体験活動は特別養護老人ホーム第2智美園、特別養護老人ホームねむのきにご協力いただき実施しました。

生徒たちはまず、施設体験における事前研修として、活動の基本的な心構えや、高齢者疑似体験、車いす操作の実技訓練など、高齢者の身体状況や介護に関する基礎知識について学び、4日間の施設体験活動に臨みました。

体験活動では、慣れない状況に戸惑いながらも利用者の方と会話したり、施設職員の指導の下、食事配膳や車いすの介助等を行い、最終日には仲良くなった利用者の方と別れを惜しむ生徒もいました。

また第2智美園では、施設の夏祭りにも参加し、出店の手伝いや利用者の方と盆踊りをして交流を深めていました。

このような参加体験型学習は、学校教育だけでは得られない貴重な体験です。この経験が、今後の生徒たちの進む道において大いに活かされることを期待しています。



昨年度、本事業に参加した希望が丘高校の卒業生が体験施設の第2智美園に就職しました！



おの みさき
小野 美沙希さん

介護の道に進むか迷っていましたが、施設体験の際、第2智美園の職員の方々の笑顔が非常に印象的で、進路を決めるきっかけになりました。

9月からはいよいよ夜勤業務も始まるので、気合いを入れて頑張っていきたいと思います。

もともと介護の道を志していましたが、4日間の施設体験に参加したことで夢が現実的になりました。あのときに学んだコミュニケーションのとり方は、今の業務にも活かせていると思います。

今後は働きながら介護福祉士の資格取得も目指したいと思っています。



よしだ よしき
吉田 佳生さん

【問い合わせ先】
地域福祉部 地域課
☎092 (584) 3377

認知症の人を理解し、その人を支えるためには ～いつだって、心は生きている～

厚生労働省の調査によると、65歳以上の方の7人に1人が認知症、その数は約462万人であることがわかりました。もし、家族が認知症になったらどう対応すればよいのか、自分の住む町で安心して暮らせるのか、不安に感じる方も少なくありません。さらに軽度認知障害（MCI：Mild Cognitive Impairment）と呼ばれる認知症予備軍の方も400万人いることがわかりました。昨年発表された認知症高齢者数は、305万人で今回の調査ではそれを大きく上回り、本人はもちろんのこと、その家族等に対する支援体制の充実が望まれます。

本会では、一般県民向けに介護講座を実施しており、「認知症介護コース」では、認知症の人の行動から心理を疑似的に体験する「認知症疑似体験」を行っています。

【認知症疑似体験プログラム】

1. 導入・認知症とは（30分）
2. アルツハイマー中期の方の実際について「DVD視聴」（25分）
3. 体験方法についての説明（5分）
4. 認知症疑似体験DVD「自宅トイレ編」（10分）
自宅トイレが分からなくなった方の行動から心理を考える
5. グループ協議：ご本人の気持ち、家族の対応、住環境について（10分）
6. 認知症疑似体験DVD「徘徊編」（15分）
自宅から出かけた高齢者が自分が思い描く自宅を探し一昼夜を過ごす徘徊の様子を通して、必要なサポート等について考える
7. グループ協議：外の危険箇所について、必要なサポートは何か（10分）
8. 発表・まとめ（15分）

○**認知症疑似体験とは・・・**
もし、認知症になったら、どうなるのでしょうか？徘徊しているお年寄りは何を思いながら歩いているのでしょうか？認知症のお年寄りの心を理解すれば、あたたかい気持ちで接することができそうです。
認知症疑似体験は、次のような方法で行います。

○**認知症の方を支える地域づくり**
8月18日に開催した介護講座・認知症介護コース「認知症の人の心理を考えよう」認知症高齢者の行動から心理を疑似的に体験」は、42名が受講しました。
本講座を受講された久留米市社会福祉協議会の三原洋子さんは、受講動機について次のように話されました。

「久留米市社協では認知症を支える地域づくりに積極的に取り組んでいます。市内には数百単位で高齢者サロンがあり、介護予防等に取り組んでいます。もしこの先、サロン参加者が認知症を患った場合や要援護者の方も、変わらずサロンに参加してもらいたいと、サロン代表者と認知症の学習会を企画したいと話しています。そのため本講座を参考にできればと受講しました。」

また、徘徊される認知症の方を探し出す場合、日中地域にいる子どもさんや子育て中のお母さんたちの協力は不可欠です。今後、久留米市社協では福祉推進校である小・中・高校を対象に、認知症サポーター養成講座を実施し、児童生徒の皆さんに地域の方々と一緒に高齢者や認知症の方を応援するサポーターになっていただきたいと考えています。」

「認知症の方特有の見当識障害や徘徊といった行動を知ることにより、認知症の方の不安やもどかしさに寄り添う声掛けやサポートについて具体的に考えることができると思います。認知症の方々を支える地域づくりとしての教材や、認知症サポーター養成研修のフォローアップなどにも有効ではないかと思いました。認知症になっても『いつだって心は生きている』、その言葉どおり認知症の人の気持ちになって考えることができました。」というものでした。



DVD鑑賞後、認知症の人の気持ちになって、活発な意見交換が行われました。

福岡県社協では、認知症疑似体験を皆さんの身近な地域で体験いただくことで、認知症の方を支える地域づくりを推進するために、出張認知症疑似体験を実施しております。
8月23日に大木町役場で行った出

張認知症疑似体験では、民生委員児童委員の皆さん、30名が受講されました。

グループ協議では、昨年、実際に認知症の方が行方不明になり、地域の方の協力で無事に保護された事例が発表されました。その方が運動靴を手に持って歩いていたところを、地域の高校生が不信に思い、声をかけて警察に通報したそうです。

受講後のアンケートでは、認知症高齢者を地域で支える体制づくりは、喫緊かつ深刻な問題であり、認知症の方を地域住民（小学生から大人まで）が一体となってサポートできる体制づくりの必要性や、このような研修を地域でもっと開催し、地域全体の課題として考えていきたい等の声が聞かれました。

受講された方々の意識は高く、その思いが地域に広がり、どの町でも認知症の方が安心して暮らせるよう県社協もサポートしていきます。

○是非ご参加ください

福岡県社協では、認知症を支える地域づくりが、皆さんの身近な地域で広まることを目指して、来る10月9日、クローバープラザで「県民介護講座 認知症について考えるつどい」認知症を正しく理解し、地域とともに生きるために」を開催します。どなたでもご参加いただけます。

県民介護講座 認知症について考えるつどい ～認知症を正しく理解し、地域とともに生きるために～

【日時・会場】 平成25年10月9日(水) 13:00～16:30 クローバープラザ クローバーホール(春日市)

【プログラム】

- 講演：「いつだって心は生きている」 講師：大牟田市認知症ケア研究会 代表 大谷 るみ子 氏
 - 事例発表①：「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」 発表者：北九州市社会福祉協議会
 - 事例発表②：「徘徊高齢者探索、メールでつながる安心の地域づくり」 発表者：守恒校区まちづくり協議会(北九州市小倉南区)
 - 疑似体験「認知症高齢者の気持ちを疑似的に体験しよう」 説明：福岡県社会福祉協議会 介護実習課
- その他相談コーナーや情報コーナーなどございます。詳細は、下記ホームページをご覧ください。

【参加方法】 下記ホームページから申込書をダウンロードするか、直接本会介護実習課までお電話ください。

【HPアドレス】 <http://www.fsw.or.jp/>(トップページの「新着情報」に掲載しています)

【問い合わせ先】 福岡県社会福祉協議会 介護実習課 ☎092(584)3351

「認知症」の人のために家族ができる10ヶ条

「公益社団法人認知症の人と家族の会」が、はじめて認知症の人と向き合うとき、介護者にのしかかる戸惑いや不安、負担の大きさ等に対応する心構えとして、掲げています。

1 見逃すな「あれ、何かおかしい？」は、大事なサイン

認知症の始まりは、ちょっとした物忘れであることが多いもの。単なる老化現象とまぎらわしく、周囲の人にはわかりにくいものです。
あれっ、もしかして？と気づくことができるのは、身近な家族だからこそです。

2 早めに受診を。治る認知症もある。

認知症が疑われたら、まず専門医に受診すること。認知症に似た病気や、早く治療すれば治る認知症もあります。また、適切な治療や介護を受けるには、アルツハイマー型認知症や脳血管性認知症などをきちんと診断してもらうのは不可欠です。

3 知は力。認知症の正しい知識を身につけよう。

アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症では、症状の出方や進行、対応が違います。
特徴をよく知って、快適に生活できるよう、その後の家族の生活や介護計画づくりに役立てましょう。

4 介護保険など、サービスを積極的に利用しよう。

介護保険など、サービスを利用するのは当然のこと。家族だけで認知症の人を介護することはできません。
サービスは「家族の息抜き」だけでなく、本人がプロの介護を受けたり社会に接する大事な機会です。

5 サービスの質を見分ける目を持とう。

介護保険サービスは、利用者や家族が選択できるのが利点。質の高いサービスを選択する目が必要です。
また、トラブルがあったときは、泣き寝入りせず、冷静に訴える姿勢を持ちましょう。

6 経験者は知恵の宝庫。いつでも気軽に相談を。

介護経験者が培ってきた知識や経験は、社会資源の一つ。一人で抱え込まずに経験者に相談し、共感し合い、情報を交換することが、大きなささえとなります。

7 今できることを知り、それを大切に。

知的機能が低下し、進行していくのが多くの認知症です。しかし、すべてが失われたわけではありません。
失われた能力の回復を求めると、残された能力を大切にしましょう。

8 恥じず、隠さず、ネットワークを広げよう。

認知症の人の実態をオープンにすれば、どこかで理解者、協力者が手をあげてくれるはず。公的な相談機関や私的なつながり、地域社会、インターネットなどのさまざまな情報を上手に使い、介護家族の思いを訴えていきましょう。

9 自分も大切に、介護以外の時間を持とう。

介護者にも自分の生活や生甲斐があるはず、「介護で自分の人生を犠牲にされた」と思わないように自分自身の時間を大切にしてください。
介護者の気持ちの安定は、認知症の人にも伝わるのです。

10 往年のその人らしい日々を。

認知症になっても、その人の人生が否定されるわけではありません。
やがて来る人生の幕引きも考えながら、その人らしい生活を続けられるよう、家族で話し合しましょう。

社会福祉法人 周防学園 (豊前市)

「何度も来たくなる」を目指して



人気No.1のごぼう天うどん。ごぼう天は器からはみ出すこのボリューム。食べごたえ抜群です！

うどん
豊前屋



「土日祝日の昼時は、お客様に列を作って待っていたり、スタンプはうれしい反面、休み暇もなく走り回って頑張っています。」

そう話す秋吉陽平さんが副施設長を務める社会福祉法人周防学園は、2006年に「うどん豊前屋官べえ」をオープンしました。今では地域の人気店となり、常連客のみならず遠方から足を運ぶ人も多いそうです。

北九州と大分を結ぶ国道10号線沿い、人気スポット道の駅「豊前おこしかけ」と「しんよしとみ」のほぼ中間に位置しており、車通りの多い好立地で日本家屋風の建物と大きな看板が目印の店舗です。

北九州市にある人気店「津田屋官兵衛」さんの協力を得て、その味を受け継いだ官べえこだわりの自家製生麺は、透明感と、沸騰を絶やさず一気に茹で上げる、つるつる、しこしこの食感が魅力です。細麺で喉ごしのツルとした感覚が強調されます。

注文を受けてから調理を行うので、出来立ての美味しいうどんがいただけます。

1番人気のメニューがごぼう天うどん。器からはみ出すほどの大きさ

が特徴的。また、店で使用するお米やトッピングの野菜は、すべて周防学園や地元産の新鮮野菜を使用するというこだわりよう。

月4、5回来店するという常連さんは、「麺が細く、コシがあり美味しい。ざるうどんがおすすめです。つけ汁が最高ですよ。」と絶賛です。



店内は木のぬくもりを感じる造り。奥には家族連れでゆっくと食事ができる個室もあります。



夏期はよく注文が入る「ざるうどん」。人気メニューです。



自家製生麺を一気に茹で上げます。

「サービス業で働きたいという利用者のニーズが多かったので、就労支援を幅広いものにするために、法人がこれまで取り組んできた農業とプラスチック成形工場に、飲食店という選択肢を増やすことにし、この店をオープンさせました。」

秋吉さんは、利用者と共に作りあげたいという強い気持ちを持ちながら、うまく馴染めない利用者やどう適応させていくか試行錯誤したそうです。

「例えば接客でトラブルが発生しても、障害者が働く店だからといって言い訳はできません。事実、来店されなくなったお客様もいます。辛い事や悲しい事、うまくいかないこともあるのが社会であり、このことをしっかりと受け止めてもらうようにしています。そして、ここではみんなが共に働く『スタッフ』ということを感じてもらいたいです。」

この支援者は利用者のペースを大



平成25年4月から正社員として汗を流す田島健一さん

事にしながら、仕事の意義を共有し、意識の向上に努めているそうです。

開店準備の忙しい中、厨房をのぞくと、もくもくと仕込みをするスタッフがいきました。

その方の名は、田島健一さん。彼はこの店で実習生として頑張った結果、平成25年4月から正社員として汗を流しています。

「何よりも接客が難しく、お客さんを怒らせたこともたくさんありましたが、常連さんからの『ありがとう』や『顔を見に来たよ』などの温かい声に喜びややりがいを感じ、日々頑張っています。」

イチオシを尋ねると、「一番はごぼう天うどんですよ。男性のお客さんはうどん定食にごぼう天をトッピングして下さい。満腹になります。暑い時期はざるうどんもおススメです。是非食べてください。」

田島さんはうれしそうに話されま

す。

「目標は2号店を出して店を任せたい。今後は製麺作業も習得し、店を支える職人になりたい。そして、何よりお客さんの笑顔で溢れるような繁盛店にしたいです。」

実習期間を経て徐々に意欲的になり、目標や夢を持つことができた田島さん。周防学園が利用者と共に作りあげていく「豊前屋官べえ」。全てのスタッフがまごころ込めてつくる美味しいうどんを、新店舗でもっと多くの人に食べてもらえる日はそう遠くないかもしれません。

スタッフが推す！ベスト5はこちらです！

No.1	ごぼう天うどん	¥560
No.2	うどん定食	¥780
No.3	野菜天ぶっかけ	¥730
No.4	天ざるうどん	¥950
No.5	ミニセット	¥500



逃走！黄金！おしどり！激辛三昧！
変わったネーミングの調味料は『豊前裏打会』オリジナル。
味の変化を楽しみたい方は是非！

まごころ製品情報

社会福祉法人 周防学園 seip

〒828-0013 豊前市大字川内 3739-16
☎ 0979 (82) 4619 FAX 0979 (82) 3525
ホームページ：http://www.suougakuen.or.jp

うどん豊前屋官べえ

〒828-0052 豊前市塔田 641 (地図参照)
☎ 0979 (83) 1332
営業時間 AM11:00 ~ 15:00 / 17:00 ~ 21:00



まごころ製品とは・・・

福岡県では、障害者施設で製造(栽培)される食品や縫製品など、障害者の皆さんがまごころを込めて作った製品や提供しているサービスを「まごころ製品」と呼んでいます。障害者の皆さんが、「自立」を目指し、それぞれのアイデアや工夫、作り手の個性を活かした製品づくりに一生懸命取り組んでいます。本誌では今後も「まごころ製品」を紹介してまいります。

じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金は

くまのついでに時の備えでも役立ちます

地域で役立てられる共同募金



いのちのバトン
救急医療カードや保険証、診察券の
コピーなどを入れておきます。



冷蔵庫のドアに貼るシール

共同募金は、誰もが安心して暮らせるように、高齢者支援や子育て支援、障害者支援など、様々な地域の福祉活動を支えています。その一つに、久留米市社会福祉協議会が取り組んでいる「いのちのバトン」配布事業があります。「いのちのバトン」とは、高齢者や障害者などの世帯において、救急搬送や災害時に、救急隊員に必要な情報を早く伝えることにより適切な処置を速やかに行うための備えです。「救急医療カード」に、氏名・年齢・血液型のほか、かかりつけの病院、今かかっている病気や常用している薬、病歴、アレルギー、緊急連絡先などの必要事項を記入し、健康保険証のコピーなどと一緒に専用ケースに入れ、それを冷蔵庫に保管しておきます。また、「いのちのバトン」を設置していることが分かるよう、玄関内側と冷蔵庫のドアにシールを



貼るようにします。

こうすることで、「いのちのバトン」があることを知らせ、救急搬送時、または、災害等で非難する際に「いのちのバトン」も一緒に持ち出してもらうようにします。

安武地区では、民生委員・児童委員10人が、見守り訪問活動を行っている方々を回り、75歳以上の一人暮らしや世帯、障害のある方、認知症の方がいらつしやる世帯など、希望者に約270本配布しています。配布先は、社会福祉協議会と消防で共有し、救急搬送などの際に

右から
安武校区まちづくり振興会
会長 古賀 秀心 さん
安武校区民生委員児童委員協議会
会長 森 幸雄 さん
安武校区社会福祉協議会
会長 三原 圭子 さん

安武校区は、福祉関係者の連携が抜群！「福祉のまち、安武」を目指して活動されています。

活用できるように備えています。

安武校区民生委員・児童委員長の方々に「これはいいね、安心だ。」と声をかけられたとのこと。幸い、安武校区では、バトンの配布後に救急搬送された方はおられません。他の校区では、民生委員児童委員が、83歳のひとり暮らしのお宅を訪問した際、カーテン越しに中で倒れているのを発見し、救急搬送時、「いのちのバトン」を活用したことがあるそうです。

このように、共同募金は、いざという時の備えにも役立っています。

【問い合わせ先】

福岡県共同募金会

☎092(584)3388





赤い羽根 NEWS

福岡ソフトバンクホークス 本多 雄一 選手ら 今年も共同募金を応援！！

本多選手からの 応援メッセージ

「自分が野球を頑張ることで、福岡を元気にしたいと思っています。また、募金活動を通じて、みんながより過ごしやすくなるよう願っています。応援よろしくお願いします！」



今年度の広報資材のお披露目の様子



福岡県共同募金会 小川弘毅会長から感謝状を受け取る本多選手



平成25年度限定オリジナルグッズです。申し込みは、福岡県共同募金会または本多選手各支店まで。

共同募金運動は、毎年多くの募金ボランティアのご協力のもと、民間の社会福祉活動を財政面から広く支援しておりますが、厳しい社会経済情勢のもと、募金実績は全国的に減少傾向にあります。

そこで福岡県共同募金会では、共同募金運動を広くアピールするため、平成24年度から、福岡ソフトバンクホークスの本多雄一選手（福岡県出身）に、『赤い羽根応援大使』にご就任いただき、赤い羽根共同募金運動の広報啓発等にご協力いただいております。

今年も10月1日からの運動開始に向け、本多雄一選手を起用したポスターや、福岡ソフトバンクホークスのご協力のもと、球団キャラクター（ハリーホーク）と赤い羽根とをコラボしたバッジなどのお披露目会を福岡ヤフオクドームで開催し、本多選手に感謝状をお渡ししました。

今年も始まりませう！ 赤い羽根共同募金運動

運動期間10月1日から12月31日

共同募金運動は、民間社会福祉事業を支援するため、住民主体の自主的な活動として、1947年（昭和22年）、全国的に始まりました。今年で67回となります。

皆様にご協力いただいた募金は、様々な福祉課題の解決のため、「高齢者の生きがいづくり活動」、「子育て支援活動」、「福祉教育の推進」などの地域で行われる福祉活動のほか、「福祉施設の備品整備」「福祉車両の購入」などの県域での福祉活動の支援、大規模災害時のボランティア活動の支援など、幅広く活用されています。

今年の福岡県の目標額は、6億4745万3808円です。皆様の温かいご支援、ご協力をお願いします。





第13回

福岡県ねんりんスポーツ・文化祭

メインイベント開催まで あと **2** か月

スポーツや文化活動を通じて、生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりに取り組みたい!

このような思いを積極的に支援するとともに、世代を超えた交流を深め、はつらつとした高齢社会を築くことを目的に、福岡県ねんりんスポーツ・文化祭を平成13年度から開催しています。

今回は北九州地域を中心に開催し、メインイベントでは子どもから大人まで楽しめる多彩な催しを行います。多くの皆様のご来場を心からお待ちしています。

入場無料

日時 **11**月**24**日(日) **10**時から**16**時まで

会場 黒崎ひびしんホール (北九州市八幡西区岸の浦2丁目1-1)

大ホールイベント

合唱フェスティバル

10:30~12:10

日頃から合唱を楽しんでいるシニアのはつらつとした素晴らしい歌声や北九州アカデミー少年少女合唱団との合唱を通じた世代間交流をお楽しみください。



式典・記念講演

13:30~15:10

- 式典、表彰式
 - 記念講演
- 講師 **野口 健氏**
(アルピニスト)



託児無料

演題 **「目標を持って生きることのすばらしさ」**

中ホールイベント

やなせたかしシアター

①「アンパンマンが生まれた日」
(12分)

②「ハルのふえ」
(48分)

1回目 10:30
2回目 12:30
3回目 14:30



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV ©やなせたかし/TMS ©2008 やなせたかし/「やなせたかしメルヘン劇場」製作委員会

各種イベント

ふれあい市場

・おいしい食べ物や特産品、障害者がつくるまごころ製品等がいっぱい!

地域文化伝承コーナー

・竹細工など昔懐かしい手作りの文化を味わってください。

スポーツ・レクリエーション体験コーナー

・子どもから高齢者まで幅広く楽しめるニュースポーツが体験できる!

健康福祉コーナー

・あなたの「骨密度」、「血管・脳・肌年齢」をチェックしてみませんか。

「おじいちゃん・おばあちゃんの絵」コンクール

・小学生が描いた大好きな「おじいちゃん・おばあちゃんの絵」入選作品を展示。

絵手紙体験コーナー

・一枚の絵手紙に思いを込めて…。あなたらしい絵手紙を作りませんか。

福岡県70歳現役応援センター出張相談会

・職場や地域で活躍したい! 社会のために役に立ちたい!



ねんりんスポーツ・文化祭に関する問い合わせは、下記実行委員会事務局までお気軽にご連絡ください。

問い合わせ先 **福岡県ねんりんスポーツ・文化祭実行委員会事務局**
福岡県社会福祉協議会 地域福祉部 長寿社会推進課
☎ 092 (584) 3377



相談あれこれ

Q & A

このページは、Q & A形式で、認知症高齢者の生活問題について取り上げ、それに対する対応策や制度について紹介します。

Q 母は、認知症と診断され、治療を受け自宅で暮らしています。

記憶が途切れ途切れになり、直前のことも思い出せないことが多くなりました。少しずつ進行しているようで、母自身もことばが少なくなり不安げに暮らしています。表情も乏しくなっており、このまま何もわからなくなっていくのかと心配です。

A 認知症が進んでも、心は豊かに生きています。

認知症の人にとって、不安と心身のストレス、何もすることがない暮らしが大敵です。このような状態が続くと混乱が強まり、うろうろ歩いたり、ひょいと外に出て行ったり、パニック状態等のもとになることもあります。

認知症の人は安心と、自分の力が活かせる場面があると、その人らしい姿を現すことができます。

嬉しい、楽しい、誇らしい気持ちの余韻は後に残ります。
不安感、悔しさ、怒り、悲しい気持ちは尾を引きます。

表情が乏しくなったり、声かけに反応しなくなったりしても、感性や美しいものに対する興味、年長者としての誇り、幼子に対する慈しみの気持ちなどを、こころに秘めています。

介護保険のデイケアやデイサービスの利用は本人にも家族にとっても有効です。地域包括支援センター、介護保険の利用などの情報も市町村役場に問い合わせてみましょう。

ささいなことでも遠慮せず、早目に専門職や介護経験者に相談しましょう。

認知症電話相談（高齢者総合相談事業）のご案内

☎ 092 (584) 3317（福岡県社会福祉協議会 県民サービス部 評価・相談課）

相談は無料です。お気軽にご相談ください。

- 認知症予防について ○認知症の症状について ○介護の方法について
- 介護疲れや悩みの相談 など

- 担当相談員 介護経験者 火曜日、金曜日（認知症の人と家族の会福岡県支部）
保健師 木曜日、土曜日（福岡県在宅保健師若草会）
- 相談時間 10:00～16:00

平成25年福岡県社会福祉大会を開催します

福岡県社協は、福岡県共同募金会との共催で、来る10月17日(木)、クローバープラザ(春日市)で、「平成25年福岡県社会福祉大会」を開催します。本大会は、「老人福祉法制定50周年」の節目の年にあたり、県内社会福祉関係者が一堂に会し、社会保障・社会福祉制度の現状と課題を踏まえ、誰もが安心して暮らすことのできる元気な地域づくりに取り組んでいく契機として開催します。

【大会日程】13:15 開会(受付12時)

13:20 記念講演「地域で安心して暮らす ～支え合い・つながり・絆～」
福祉ジャーナリスト 村田 幸子 氏

14:40 総会・式典



《記念講演講師プロフィール》

村田幸子氏は、立教大学英米文学科卒業後、NHKアナウンサー、NHK解説委員を経て、福祉ジャーナリストとして福祉問題を専門に取材・講演活動を続けられています。現在、中央社会保険医療協議会委員、身体障害者福祉審議会委員等を歴任されています。

詳細は本会ホームページでもご覧いただけます HPアドレス <http://www.fsw.or.jp/>

福祉教育読本「ともに生きる」改訂作業スタート!

本会では、福祉に対する理解を深め、子どもの頃から福祉意識を高めていくことを目的として、福祉教育読本「ともに生きる」を昭和59年から市町村社協を通じて県下の小学生に配布してきました。



今般、「ともに生きる」を福祉教育教材として大幅に改訂するとともに、その具体的な活用方法の検討を行うために、関係機関・団体にご協力いただき、「福祉教育教材『ともに生きる』編集・活用推進委員会」(委員長 筑紫女学園大学 人間科学部教授 山崎安則氏)を設置しました。

去る8月7日(水)に開催した第1回委員会では、本委員会のアドバイザーに就任いただいた日本福祉大学 教授 原田正樹氏から「社協・学校・地域がつながる福祉教育」をテーマに講話をいただきました。委員会では、平成27年度からの配布を目指して検討を進めていきます。

地元で働きたい方のために

～県内3ヶ所で福祉の職場求人・求職面談会を開催～

参加費無料

■参加対象者 社会福祉施設等への就職を希望する方や社会福祉の資格や仕事に関心のある方など
【地区別期日等一覧】

地区	期日	時間	会場	問い合わせ先(各地区バンク)
筑後	10月19日(土)	13:00～16:00	久留米リサーチ・パーク 久留米市百年公園1-1	筑後地区福祉人材バンク ☎ 0942(34)3035
京築	10月27日(日)	12:00～15:00	ウィズゆくはし 行橋市中津熊501-1	京築地区福祉人材バンク ☎ 0930(23)8495
筑豊	11月3日(日)	13:00～16:00	サン・アビリティーズいいづか 飯塚市柏の森956-4	筑豊地区福祉人材バンク ☎ 0948(23)2210

※事前の参加申込は不要です。受付は、各会場とも開始の30分前から行います。

■各コーナー内容

- 福祉施設等と求職者との面談コーナー
- 求職登録コーナー
- 福祉人材バンクコーナー
- 福祉関係学校・資格相談コーナー
- 福祉の仕事・就職相談コーナー

■問い合わせ先

福岡県福祉人材センター(県民サービス部 人材・情報課) ☎ 092(584)3310 FAX 092(584)3319

詳細は「福岡県福祉人材センター」のホームページでもご覧いただけます

HPアドレス <http://www.cloverplaza.or.jp/shakyou/stales/jinzai/index.html>

しせつの損害補償

◆スケールメリットを活かし、充実した補償内容です。

プラン1 施設業務のための補償

(賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険)

1 基本補償

保険期間1年職種級別A級

▶補償金額			
	基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)	
賠償事故に対応	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金補償限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等の各種費用	初期対応費用(期間中)	500万円	500万円
	事故初期見舞費用(1名につき)	死亡10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)	死亡10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)
	利用者傷害死亡事故弔慰金		死亡(重度後遺障害) 100万円(78~100万円)
	利用者傷害事故見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

▶年金保険料(掛金)	
定員	基本補償(A型)
1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと	1,500円

基本補償(A型)
保険料

+

【見舞費用加算】
定員1名あたり
入所：1,400円
通所：1,500円

- オプション1 ● 訪問・相談等サービス補償
訪問介護、居宅介護支援等
- オプション2 ● 施設の医療事故補償
医務室(診療所)での医療行為



老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の
事故・紛争円満解決のために!

プラン2 施設利用者のための補償

(普通傷害保険)

- 1 入所型施設利用者の傷害事故補償
- 2 通所型施設利用者の傷害事故補償

保険期間1年職種級別A級
(10口まで加入できます)

▶補償金額	1口あたりの補償額
死亡保険金	100万円
後遺障害保険金	死亡・後遺障害保険金額の3~100%
入院保険金(1日あたり)	800円
手術保険金	8,000円・16,000円・32,000円
通院保険金(1日あたり)	500円

▶年金保険料(掛金)	定員1人1口あたり
1 入所型施設利用者	1,410円
2 通所型施設利用者	960円

プラン3 施設職員のための補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険)

- 1 施設の労災上乗せ補償
- 2 施設職員の傷害事故補償
- 3 施設職員の感染症罹患事故補償

インターネットで
保険料試算が
できます!

ふくしの保険

検索

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記をお願いします。

団体 社会福祉法人
契約者 **全国社会福祉協議会**

取扱 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン(SJ12-11312 2013.1.31作成)

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

あなたためよう 君の思い みんなの思い

赤い羽根共同募金

みんな、応援よろしく!!

本多 46



福岡県 赤い羽根応援大使
福岡ソフトバンクホークス
本多 雄一 選手
(福岡県出身)

共同募金は、高齢者・障害者・子育て支援等の福祉活動のほか、福祉教育の推進、大規模災害に備えた積立、地域の絆づくりの支援など、地域の町づくりのために幅広く活用しています。



運動期間
10月1日～12月31日

社会福祉法人 福岡県共同募金会

春日市原町3-1-7 クローバープラザ6階
☎ 092-584-3388

共同募金の使いみちは「はねっと」でも公開中「<http://www.akaihane.or.jp>」

<http://www.fsw.or.jp/kyobo/index.html>